

文化

柳田 国男

「広辞苑」の編者として知られる新村出(1876~1967年)。京都帝国大の言語学講座の初代教授で、京都を拠点に研究に取り組んだこの言語学者が、民俗学者柳田国男と長年親交を結んでいたことは意外に知られていない。変遷する言葉や生活文化を探究し続けた2人の交流を示す資料を、京都大人文科学研究所の菊地暁助教(民俗学)がこのほど新村出記念財団重山文庫(京都市上京区)などから見だし、分析した。そこには、2人の出会いが媒介となって、東西の研究者たちの知的交流がはぐくまれた経緯が見えてくる。

(佐久間卓也)

生ける言語研究の両輪 交流

新村 出

菊地助教によると、新村と、1歳年上の柳田は旧制一高在学中から晩年まで60年以上にわたる交流があった。言語や郷土研究の上で情報交換を続け、1940年設立の日本方言学会では、初代会長を柳田が、2代目会長を新村が務めた。

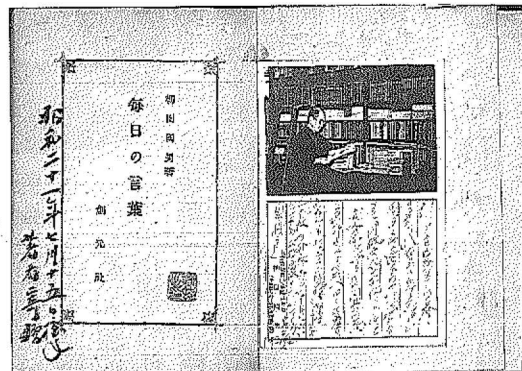
菊地暁 京都大人文科学研究所助教

重山文庫の書簡や蔵書分析

となり、分野にとらわれない京都の研究者のネットワークと共鳴し、さまざまな学問の進歩につながった」と菊地助教。柳田や東京を中心に捉えられがちな民俗学の発展に、京都の自由な学問的風土が少なからず影響を与えたとみる。



新村出(右)と柳田国男。昭和12年、東京の柳田邸にて—新村出記念財団重山文庫所蔵



新村に柳田から贈られた著書とはがき。新村の筆で日付が記されている(新村出記念財団重山文庫所蔵)

学識認め、尊重し合う論敵 京の学風も影響

む習慣があり、互いに贈り合った本も例外ではなかった。書き込みからは、新村が東京の柳田邸を訪問したり、柳田が京大の集中講義の講師として来訪したりと、具体的な交流をうかがい知ることができている。

友人としての旧懐の情や、気遣いの記述だけでなく、研究者としての気概ものぞく。「馬鹿」の語源や地名の由来などをめぐって議論し、質疑応答する。時には、互いに資料の紹介や閲覧の便宜を図り、相手の著書に印をつけて「拙稿への批判あり」などと記す。一方で柳田が、日本方言学会の連

営や資金繰りの苦労などを新村に相談したり、編纂書への寄稿を新村に断られながらも依頼し続けたたりした一面も見え、京都の老友との深い友情が浮かび上がる。



共著「ことばの力 あらたな文明を求めて」で研究成果を発表した菊地助教(京都市左京区・京都大人文科学研究所)

海外文化通信

中国

北京の流行スポット・三里屯地区に、中国でも大人気のキャラクター「ハローキティ」をテーマにしたレストランがオープンし、話題を呼んでいる。その名も「Hello Kitty City」 主題夢幻西餐厅」。商標権を持つサンリオ(東京)が公認し、現地業者が運営している。中国大陸では初のキティちゃんレストランだという。店は大型デパートの中にあり、



キティちゃんレストランの店内。店員たちが手で作るハートは「歓迎」の印という—北京(筆者撮影)

夢の国で求婚 キャラ文化も本物志向へ

英語名の「ドリームズレストラン」の通り、まるで夢の世界。ピンクのメイド服のスタッフが案内してくれ、壁もいすもキティちゃんに埋め尽くされている。メニューは牛リブステーキセットが約3千円と中国ではかなり高価だが、週末の午後の店内(約70席)はほぼ満席。隣席の若い女性客はデザインケーキを前に「かわいい」と大喜びしていた。

キティちゃん人気は、1990年代に香港や台湾からグッズが入り、大陸で作られたコピーが氾濫したことから始まった。そのためサンリオは2003年に子会社を上海に設立、これまでに約100店の正規ショップが開かれた。公認レストランの人気ぶりに、店のディレクターの李寧さんは「中国の人々は豊かになり、本物志向が高まっています」と胸を張る。

「コンセプトは女の子のお姫様願望をかなえること。サプライズのプロポーズの場としても利用され、すでに約10組の婚約が成立したんです」と李さん。日本政府の中国向け観光親善大使を務めたこともあるキティちゃん。最近では愛のキューピッドとして大活躍だ。

ともに「生ける言語」の研究に飽くなき意欲を持ち、言語の進歩を信じ続けた2人。学識を認め合い、論敵として尊重している信頼関係がよく分かり、面白い」と菊地助教は言う。

フィールド派の柳田に対し、書齋派で辞書編纂者としてのイメージが強い新村だが、京都の自由な学風の中で、越境的な問題意識で行動し、東アジアの言語史やキリシタン研究などで業績を挙げた。

菊地助教は「近代日本の人文社会系学問の歴史を読み解く上で貴重な情報源。また整理中のもも多く、今後の分析が楽しみ」と話す。

成果をまとめた共著「ことばの力 あらたな文明を求めて」(横山俊夫編)は京都大学学術出版会刊。税込4200円。

大変な生き方

51

詩の近く(上) 道北リ 田野畑 がある。 来た た だった

賢治の三陸への旅の年、関東大震災についての各専門家の天明の大飢饉の東北を旅する江戸後期の思想家高山彦九郎の姿を描いた。飢饉の中、